

保全インフォメーションきんき 第77号

(平成22年 2月22日号)

立春も過ぎ、そこはかたなく春の気配を感じられるようになってきました。春本番を前に気分も晴れやかになって参りますね。

しかし、一方で春は、花粉症の人にとって辛い季節でもあります。日本国民の5人に1人、約2,400万人もの人が花粉症に悩まされているそうです。今年の花粉量は、例年に比べて少なめと予想されていますが、花粉症の人にとって対策は重要です。マスクなどで花粉が体内へ侵入することを防ぐ、窓を開け過ぎない、外出後に衣服についた花粉を払い落とすことで花粉が室内への侵入することを防ぐ、室内の掃除をこまめに行い花粉を除去すること等の対策が考えられます。栄養バランスの良い食事や十分な休養を取り、健全な生活を送ることも重要ですが、これは花粉症の人に限ったことではありませんね。

春は冷暖房を使用しない中間期です。花粉対策と同様に、この機を逃さず、各種室内外機をはじめ、設備機器等のこまめなチェックをおこなってみてください。

も く じ

1. How to 保全

我が家のエネルギー使用量とCO₂排出量の把握(省エネの第一歩!)

2. 営繕関連情報コーナー(その1)

建設工事における総合評価落札方式について

3. 営繕関連情報コーナー(その2)

【製品不具合情報(平成16年)】ダイキン工業株式会社 ルームエアコン室外機

4. 室・事務所より

1. How to 保全

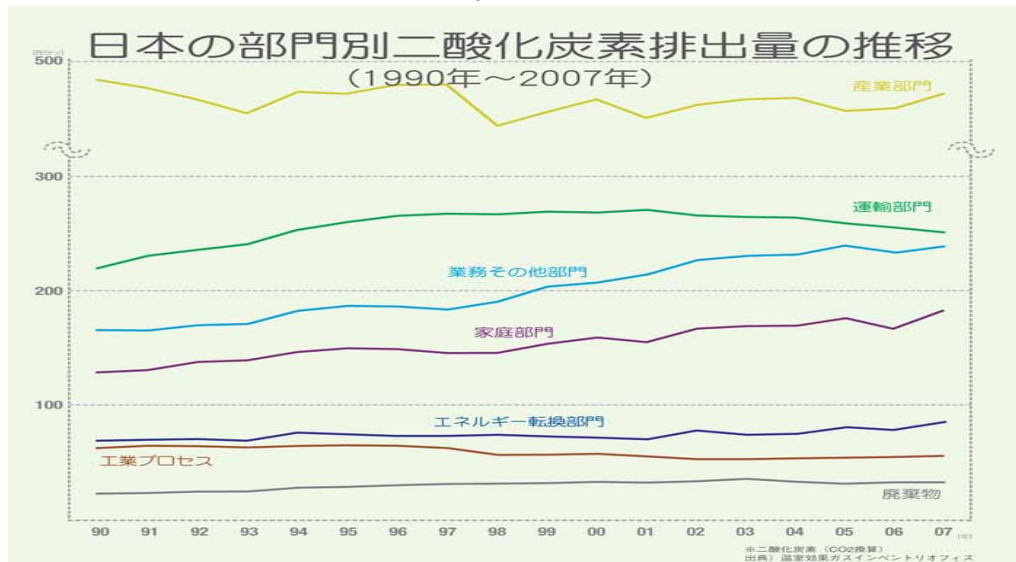
我が家のエネルギー使用量とCO₂排出量の把握（省エネの第一歩！）

1. 日本における家庭部門でのCO₂排出量の動向

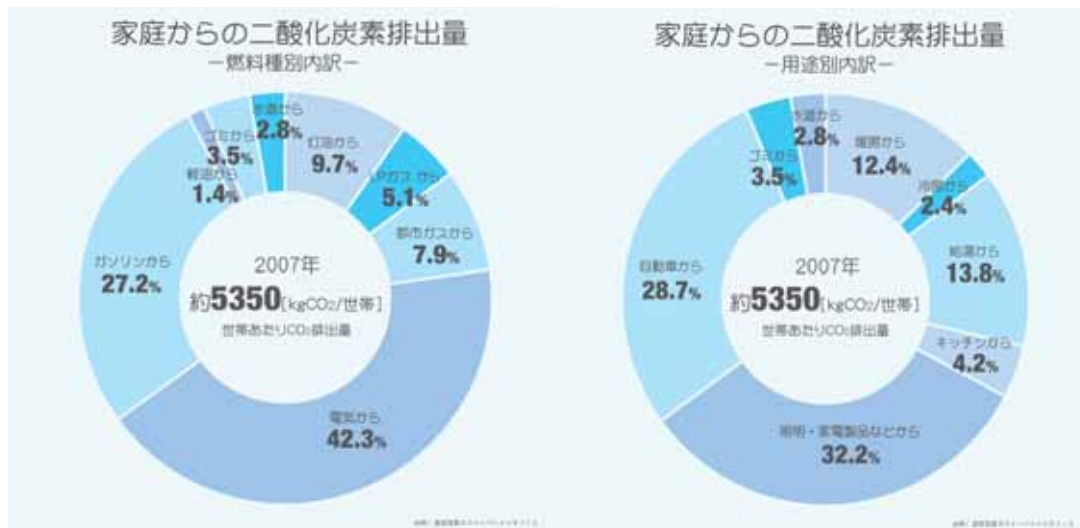
私たちは、京都議定書で温室効果ガスを、1990年を基準として2008年から2012年までの間に6%削減することを世界に約束し、まさにそのさなかにいます。2009年9月22日の国連の気候変動サミット等で表明された「温室効果ガスを2020年までに25%削減する」という鳩山政権の方針を受けて、今後、より高い削減目標が設定される可能性があります。また国の行政機関にあっては、「政府がその事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出の抑制等のため実行すべき措置について定める計画」（通称「政府の実行計画」）により、現在の削減目標は平成13年度比マイナス8%となっています。

しかし、「家庭でもエネルギーを節約してCO₂を削減して下さい。」と云われても「どれだけ家庭でエネルギーを使い、どれだけCO₂を排出し、いつまでに、どれだけ減らさなければならないか」等の情報が身近で分かり易い場所にあるとは言えないのではないのでしょうか。そこで、まず我が家の実態について調べてみましたので、ご報告いたします。

日本の部門別CO₂排出量の推移（1990年～2007年）と家庭からのCO₂排出量（2007年、燃料種別内訳・用途別内訳）のグラフを参考として下に転載します。



参考) 家庭部門では、1990年から2008年で約35%増加しています。



注) ガソリンは運輸部門、ゴミは廃棄物部門、水道は業務その他部門に入っています。

2. 我が家のエネルギー使用量とCO₂排出量の実態から・・・!

私たちの生活は様々です。その場所も、居住形態も、家族構成も、使用するエネルギーも、そして、地球温暖化に対する考え方も・・・。

このような状況の中、私自身がCO₂削減にどのように係われるのかを模索するため、まず、環境家計簿（地元自治体版）に記録した我が家の電気・ガス・水道の使用量実績とそれに排出係数を掛けたCO₂排出量をグラフに描き、検討してみました。

我が家のプロフィール

場 所：大阪府茨木市（第1種中高層住居専用地域 建蔽率60%）

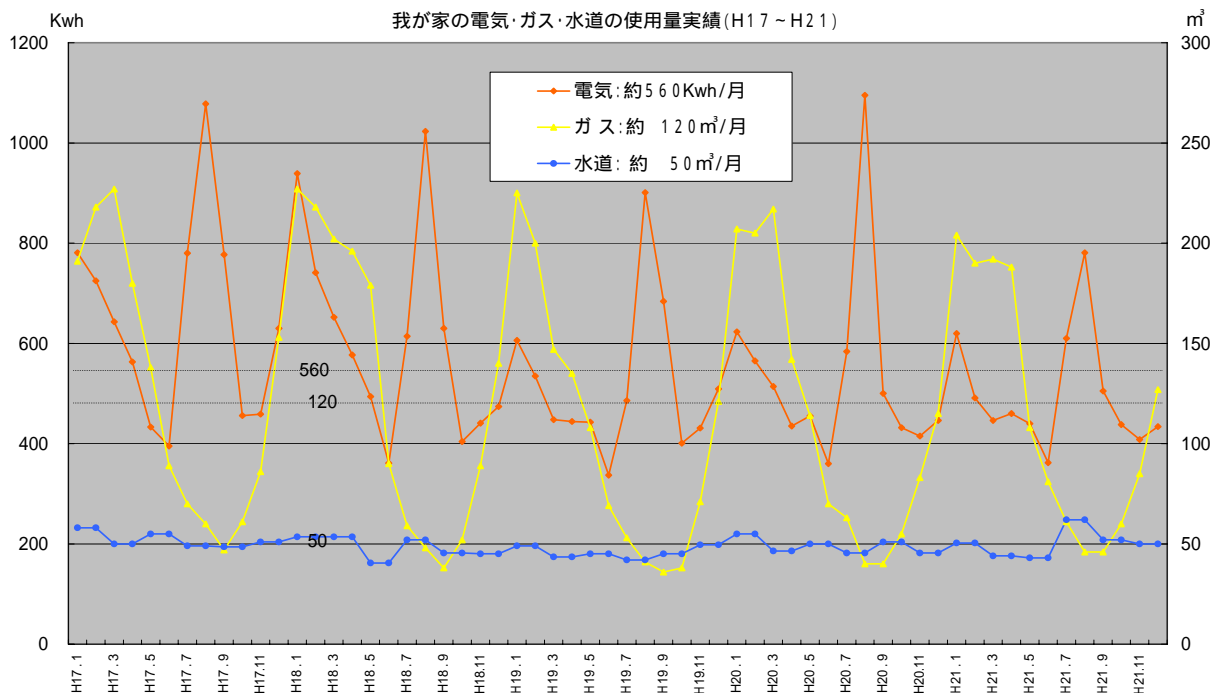
建 物：木造2階、一戸建て（在来工法）延べ面積 約120m²、築13年

設 備：エアコン（4台）ガス温水床暖房、標準的な家電製品一式

家 族：夫婦（50代）子供（社会人一年目、高校3年生）H21年4月現在

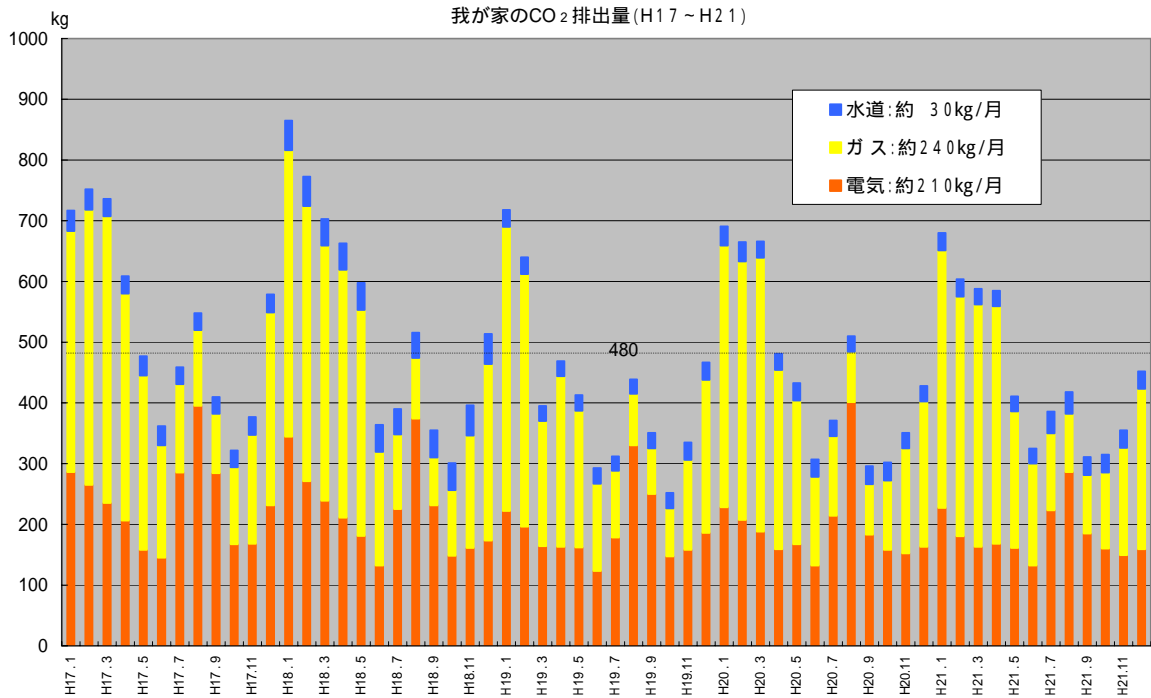
家族構成と生活実態

	H17年				H18年				H19年				H20年				H21年				備 考
	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	
本人		同		居		→	単			身				別		居		→	同	居	
妻						専				業				主				婦			
子供						大				学				生				→	同	居	運動部
子供		中				学				生				→	高			校		生	運動部



電気・ガス・水道の使用量実績のグラフからは、我が家のエネルギー消費の実態が見えてきました。また、それは我が家のライフスタイルをも反映しているといえます。

電気は、夏場が最大ピーク、冬場に二番山、春と秋は谷間でツインピーク型、ガスは、冬場が最大、夏場は谷間でシングルピーク型、水道は季節的な変動は少なく、年間ほぼ一定のフラット型である。グラフのピーク期とベース期から我が家の生活実態を振り返り、エネルギー消費のムダについて気づくことが、省エネ対策の第一歩になると思います。



CO₂排出量のグラフからは、冬場に最大ピークがあり、次に夏場の二番山、そして春と秋が谷間となっていることが分かりました。ピーク期の要因としては、暖冷房と給湯が大きいと思われる。

これは、何と言っても子供達の省エネに対する認識の低さと生活時間帯のズレ（早朝練習・受験勉強・・・）により、冬場の暖房・給湯や夏場の冷房でCO₂排出量を多くしていると思われることから、その対策が必要だと考えています。

一方では、増加の要因でもあるガス温水床暖房は、快適性、便利性、安全性（機器や配線が出ない）健康面（肌もしっとり・ほこりを舞い上げない）などに優れ、頭寒足熱で勉強の効率向上（個人差あり？）にも非常に役立っています。また、風呂から洗濯機へ給水する装置を付けています。（簡単です）これは、部活動で泥んこになったユニフォームの洗濯に大変重宝しました。（妻の話・・・）

このように、エネルギー使用量のグラフから、日々の暮らしを振り返ってみて、我が家の実態に即したCO₂削減対策を考え、それを一つひとつ実行し積み重ねていくことが、重要だと思います。また、運用面だけでなく、自宅の改修時には断熱性能の向上などのエコリフォームや、家電製品の更新時にはトップランナー機器（高効率のエアコン・テレビ・電気冷蔵庫・蛍光灯・・・）に買い換えることも有効な手段だと思っています。

3. 今後に向けて

家庭用エネルギー消費量の削減は、単に生活水準の低下につながるものではなく、運用や効率改善などにより、省エネルギーはもとより、光熱水費の節減という経済的効果や、快適性・健康面の向上など、生活水準を高める効果も期待できることを社会に対して広く情報発信していく必要があります。

そして、多くの市民がCO₂削減という目標を共有しながら、それぞれの家庭という母体でCO₂削減に取り組むためには、我が家では一体どれだけのエネルギーが使用され、どれだけのCO₂が実際に排出されているのかという現状をまず把握し、そこを出発点として、組織的にフォローアップとフィードバックを行いながら適切な対策を実行していくことが不可欠だと考えています。

（調整課 田中）

二酸化炭素排出量のグラフは「温室効果ガスインベントリオフィス」のHPより

2. 営繕関連情報コーナー(その1)

建設工事における総合評価落札方式について

『総合評価落札方式のねらいと新しい評価の方法』

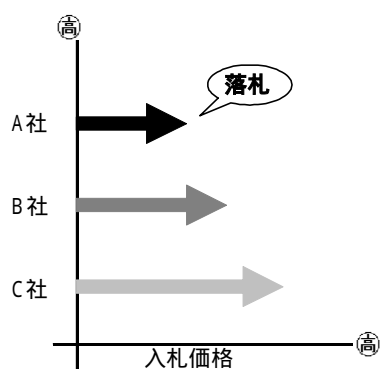
「価格」と「価格以外の要素(技術力)」を総合的に評価

これまで、建設工事の発注方式は、原則として、標準的な設計、施工方法を用い、一番安い価格を提案した者を落札者とする方式でしたが、価格競争の激化、著しい低価格入札による品質の低下等を踏まえ、平成17年4月に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行され、総合評価落札方式が導入されるようになりました。

この方式は、民間企業の持つ優れた設計、施工方法に関する技術力を活かすことにより、公共工事の総合的な価値を高めることを目指した新しい方式で、同年秋以降に試行が開始され、平成19年度からは、全ての工事において適用されています。

総合評価落札方式では、「価格」のほかに「価格以外の要素(技術力)」を評価の対象に加え、品質や施工方法等を総合的に評価し、技術と価格の両面から見て最も優れた案を提案した者を落札者とする事となります。

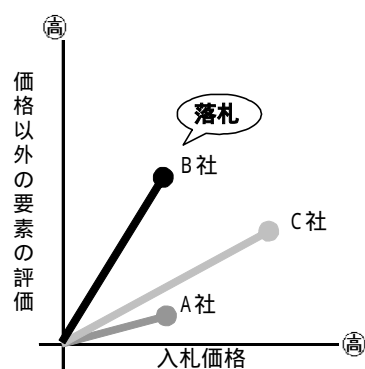
これまでの価格のみの競争



これまでの落札方式は「価格」のみの競争

最も安い入札価格を提案した業者 = 落札業者

新しい総合評価



総合評価落札方式は「価格以外の要素(技術力)」も加えた総合的な評価による競争

最も高い総合評価を提案した業者 = 落札業者

総合評価落札方式のメリット

価格と品質を総合的に評価した優れた調達が行われることにより、優良な社会資本が整備されることが期待できます。

必要な技術力を有する建設業者のみが競争に参加することにより、ダンピングの防止、不良・不適格業者を排除すること等が期待できます。

技術力を審査することにより、建設業者の技術力向上に対する意欲を高め、建設業者の育成に貢献します。

『総合評価落札方式の適用基準』

総合評価のタイプは、工事規模(工事費)と工事の技術的難易度に応じて決定

【高度技術提案型】

工事費が3億円以上の工事で、工事の技術的難易度が高い工事については、高度技術提案型を適用することができる。

【標準型】

工事費が、7.9億円以上の工事は、原則として標準型(WTO対象)を適用する。また、工事費が3億円以上7.9億円未満の工事については、標準型(難易度以上)

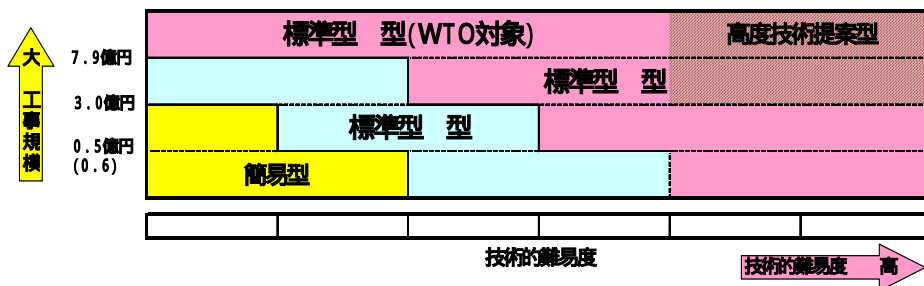
標準型 型（難易度 以下）を適用する。工事費が3億円未満の工事については、標準型 型（難易度 以上）標準型 型（難易度 、 ）簡易型（難易度 ）を適用する。

【簡易型】

工事費が5千万円未満（営繕工事については6千万円未満）の工事については、簡易型（難易度 以下）標準型 型（難易度 、 ）を適用することができる。なお、工事の技術的難易度が高いもの（難易度 以上）については、標準型 型を採用する。

【施工体制確認型】

工事費が6千万円以上の工事については、技術評価点に「施工体制評価点」を配分する、「施工体制確認型」として、施工体制確保の確実性、品質確保の実効性について、発注者が求める施工内容をより確実に実現できるかどうかを評価する。



「総合評価落札方式のタイプ別選定基準」

総合評価落札方式の標準的な実施手順

総合評価方式においての、手続きは、下記の標準的な手順を踏まえ、公告後から落札者決定まで60日～90日程度の日数を要します。

- 公 告
- 入札説明書の交付
- 申請書及び資料の提出
- 技術提案の審査
- 競争参加資格確認結果の通知
- 入 札
- 施工体制の確認
- 総合評価による落札者の決定

総合評価落札方式の実施状況

官庁営繕部においても、平成17年の秋以降試行を開始し、平成18年度には試行範囲を拡大、平成19年度からは、全ての工事において総合評価落札方式を適用されています。

また、他省庁及び各地方公共団体においても、随時、総合評価落札方式が採用されている状況であると聞いています。

「総合評価落札方式」については、国土交通省のHPに詳細が記載されていますので参考にして下さい。

3. 営繕関連情報コーナー(その2)

【製品不具合情報(平成16年)】ダイキン工業株式会社 ルームエアコン室外機

2004年(平成16年)にダイキン工業(株)製のルームエアコンの室外機を対象としたリコールがありました。不具合の内容は1995年1月(平成7年)～1998年3月(平成10年)に製造されたエアコン室外機の基盤部分から発煙、発火する恐れがあるというものでした。しかし、今月の消費者庁の公表によると、修理の進捗率は対象台数の47%程度に留まっている状況とのことです。

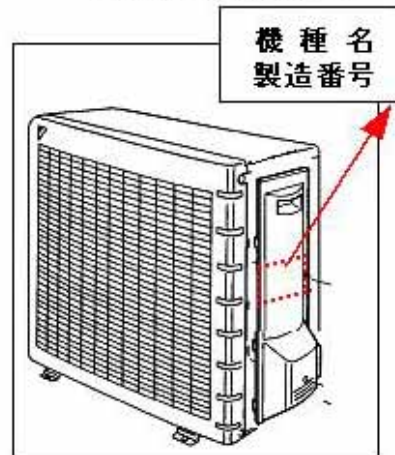
機種名、製造番号の確認がお済みでない場合は、是非、確認をお願いします。確認方法、修理の段取り等については、ダイキン工業(株)のHP内の「大切なお知らせ」をご参照下さい。

- ※対象機種の定格冷房能力は、2.2kW～3.2kW
- ※海外販売製品には、対象機種はありません。

対象機種 (6～10桁)	対象製造番号 (7桁数字)
AR2205X	4000101 ～ 4003200 5000101 ～ 5007200
AR228HDX	7000101 ～ 7008447
AR○○*6*～*	5000101 ～ 70*****
AR○○*7*～*	6000101 ～ 70*****
AR○○*8*～*	7000101 ～ 70*****
RA225G*～*	4000101 ～ 70*****
RA△△6*～*	5000101 ～ 70*****
RA○○7*～*	6000101 ～ 70*****
RA○○8*～*	7000101 ～ 70*****
RAJ○○8*～*	7000101 ～ 70*****
RAZ225*～*	4000101 ～ 70*****
RAZ△△6*～*	5000101 ～ 70*****

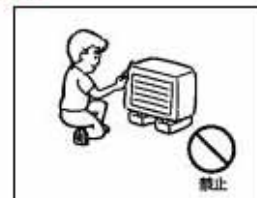
○○は22,25,28,32のいずれかの数字
△△は22,25,28のいずれかの数字
*印は数字またはアルファベット

【機種名表示位置】



ご注意

お客様自身で、工具を用いての製品の分解等は、危険ですので決してなされないようにお願いいたします。



室外機確認方法(ダイキン工業HPからの抜粋)

ダイキン工業HPアドレス : <http://www.daikin.co.jp/index.html>

(保全指導・監督室 吉岡)